

【目次】

1. 企画展「全文協結成から60年」を開催、12月07日！
2. 日本労働会館第3回理事会を開催、12月09日！
3. 第2回公益事業推進委員会を開催、12月16日！
4. 連載「日本労働会館物語」第57回（日本労働会館に結集した人々―川崎堅雄―）！

1. 企画展「全文協結成から60年」を開催、12月07日！



友愛労働歴史館は12月07日、企画展「全文協結成から60年、その今日的意義を探る」(2015.12.07～2016.05.31)をオープンいたしました。

全文協（全国文化運動協会。1955.11.21～1996.12.18）は、旧同盟（現在の連合）の文化運動やレクリエーション活動を担った組織であり、2015年はその結成から60年になります。また、来

年で解散から20年となります。

友愛労働歴史館はこれを記念し、「全文協結成から60年」展を開催し、その歴史・理念・活動を明らかにする中で、労働運動における文化運動やレクリエーション活動の今日的な意義を探るものです。

今回の「全文協」展の特徴は、①全文協の歴史・組織・活動について4部構成で展示・紹介していること、②全文協を貫いていた背骨としての運動理念を紹介していることなどです。全文協の運動理念とは、「労働運動とは、労働者の生活改善のためにする文化運動である」、「労働運動は人間の尊厳を守り、レクリエーション活動は人間を再創造（リ・クリエーション）する」、「お互いを啓発し合って、自己を磨き、人格の成長を志す（全文協綱領）」と言うものです。

2. 日本労働会館2015年第3回理事会開く、12月09日！

（一財）日本労働会館（友愛労働歴史館と労使関係研究協会、ホテル三田会館の運営母体）は、12月09日午後、友愛労働歴史館・研修室で2015年度第3回理事会を開き、2015年度事業の中間報告（①友愛労働歴史館、②労使関係研究協会、③ホテル三田会館の3つの事業）を確認しました。友愛労働歴史館関連報告は、間宮事務局長が①展示会・講演会活動、②資料の収集・管理、調査・研究活動、③情報発信・PR活動の3本の活動について報告し、何れも了承されました（詳細は略）。

3. 日本労働会館第2回公益事業推進委員会を開催、12月16日！



（一財）日本労働会館は12月16日（火）午前、友愛労働歴史館・研修室において2015年度第2回公益事業推進委員会（小出幸男会長）を開催しました。会議では①2015年度公益事業推進委員について、②友愛労働歴史館事業報告、③労使関係研究協会事業報告を確認するとともに、今後の友愛労働歴史館と労使関係研究協会の公益事業について懇談しました。

4. 連載「日本労働会館物語」第 57 回（日本労働会館に結集した人々—川崎堅雄—）



今回の「日本労働会館物語」は、戦前、共産党等で活躍し、戦後は全労（全労会議）や同盟で活躍した川崎堅雄（1903. 12. 18～1994. 05. 19）です。川崎は「戦前の共産党、近衛新体制論者、戦後の民主的労働運動の理論的指導者」（伊藤隆氏）と紹介された人物で、同盟副書記長などを歴任しました。

川崎は 1903（明治 36）年 12 月 18 日に高知県で生まれ、昭和 2 年 4 月に東京電灯（現、東京電力）に入社。翌 3 年 1 月、関東電気労働組合と日本労農党に入党します。同年 3 月、幾つもの労働争議に参加し、また“帝都暗黒陰謀事件”などにより東京電灯を解雇され、東京から追放されます。昭和 4 年に日本共産党に入社しますが、昭和 8 年に獄内で共産党から脱党。その背景には 20 歳前後に身につけた人道主義、理想主義の精神があったとされます。

戦後、勤労時報社を創設し、『勤労時報』（翌 22 年に『組合運動』と改題）を発行。同誌は労組民主化運動推進のための理論雑誌として発行されました。昭和 26 年 9 月、総評民主化運動（第二次民主化運動）の拠点、民労研（民主主義労働運動研究会）に参加。1953（昭和 28）年 2 月、民労研は民労連（全国民主主義労働運動連絡協議会）へと発展、川崎は事務局に入ります。1954（昭和 29）年 4 月、全労（全労会議、全日本労働組合会議）の結成に参加し、書記次長に就任。その後、1964（昭和 39）年の同盟結成に参加し、副書記長・情報室長・論説担当・顧問などを歴任します。また、民社党、民主社会主義研究会議、全国文化運動協会などにも参加し、活動しています。

このように川崎堅雄は戦後、主として全労会議・同盟の機関紙誌の論説担当として多くの論文・評論を発表します。民主的労働運動の基礎理論と実践論を中心した一連の著述は、「わが国労働運動の経典」（『川崎堅雄著作選集』・川崎堅雄著作選集刊行委員会）ともされています。

また、川崎は民主的労働運動と文化運動やレクリエーション活動についても、積極的に発言をしていました。下記①は『川崎堅雄遺稿集』の「労働運動への 14 歳の夢」で紹介されているもので、彼が 14 歳の時に感銘を受け、後に労働運動を志す切っ掛けとなった言葉。②～⑤は『川崎堅雄著作選集』からの引用で、文化運動やレクリエーション活動に関する川崎の熱い思いが述べられています。

- ①「労働運動とは、労働者の生活改善のためにする文化運動である」
- ②「労働運動とは、労働者が人間疎外、職場砂漠を克服するためにする文化運動である」
- ③「文化運動の基調はヒューマニズムであり、人間尊重。それは同盟の理念である」
- ④「人間解放が労働運動の魂であるとすれば、労働運動と人間の心を豊かにし、人間の精神を高揚、燃焼させることを目的とする文化運動とは、密接に重なり合っている」
- ⑤「全文協の文化運動と民主的労組の労働運動は、同じ基調、同じ土俵に立ち、人を育み、成長させる」

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

惟一館から 121 年、友愛会から 103 年